

県内の集約化・均てん化のための 院内がん登録データの集計方法

国立がん研究センターがん対策研究所

がん登録センター 利活用推進室

データ提供の根拠

院内がん登録の実施に係る指針（平成二十七年十二月十五日厚生労働省告示第四百七十号）に基づき、国立がん研究センターが収集・提供している院内がん登録症例集計データを、院内がん登録全国収集データ提供規程（令和5年4月1日規程第25-5号）に沿って、厚生労働省の依頼に基づいて集計したものです。

データ提供履歴

2025年9月24日

データセットA, B, C, Dを初回配布

データセットA, Dは、病期分類（ステージ）を集計する対象である、主に上皮性のがんを分類して計算した結果が表示される。

11月5日

データセットA, D（部位追加版）を追加配布

データセット（部位追加版）は、病期分類（ステージ）集計対象に含まれていない血液腫瘍も分類に含め、計算した結果が表示される。

データセットの構成

A	基本情報（性、年齢、症例区分別）別 初回配布・追加配布あり
B	UICC TNM分類の治療前ステージ、術後病理学的ステージ、総合ステージ別
C	治療方法別
D	患者住所二次医療圏別 初回配布・追加配布あり

データを解釈する際の注意点

- 院内がん登録情報を用いているため、全治療例が登録されているわけではない。
- あくまで、施設ベースの現状を把握するためのデータである。
- データセット **A, D** については、病期分類（ステージ）に関わる検討をする際は初回配布版、血液腫瘍を含めた分類で症例数をみる際は追加配布版が活用に適している。

分析の目的

自県の集約化を検討するにあたって、

診断から**5**ヵ月以内の症例（症例区分①）において、拠点・非拠点病院の自施設診断症例の割合を比較する。

分析の手順

- ① 目的に適したデータが含まれる、データセット・表を、**A～D**から選択する。
- ② 目的に沿った表が閲覧できるように、データ項目を選択し表を更新する。
- ③ 更新した表から、各施設の現状等を把握する。

症例区分①, ②とは

- 症例区分①は、診断から**5**ヵ月以内の症例。
- 症例区分②は、治療の実施日が診断から**5**ヵ月（**155**日）を超えていた場合、当該治療を実施していなかったとする（造血器系腫瘍は除く）。

21：自施設診断・自施設初回治療継続例 ▶ 10：診断のみ

31：他施設診断・自施設初回治療継続例 ▶ 80：その他

A	基本情報（性、年齢、 症例区分別 ）別 初回配布・追加配布あり
B	UICC TNM分類の治療前ステージ、術後病理学的ステージ、総合ステージ別
C	治療方法別
D	患者住所二次医療圏別 初回配布・追加配布あり

[illegible]

- 提供を受けたデータは把握できることが限られているので、分析の前に提供された各データセット、表、データ項目を把握し、適した表を選択できるようにしておく。
- 配布された「院内がん登録施設別集計データの概要」や、「院内がん登録 2023年全国集計 令和7（2025）年2月」を、参照する。

データセットA「A 基本図表」シート Excel上部のタブ

[表示](#) [自動化](#) [ヘルプ](#) [Acrobat](#) [ピボットテーブル分析](#) [デザイン](#)



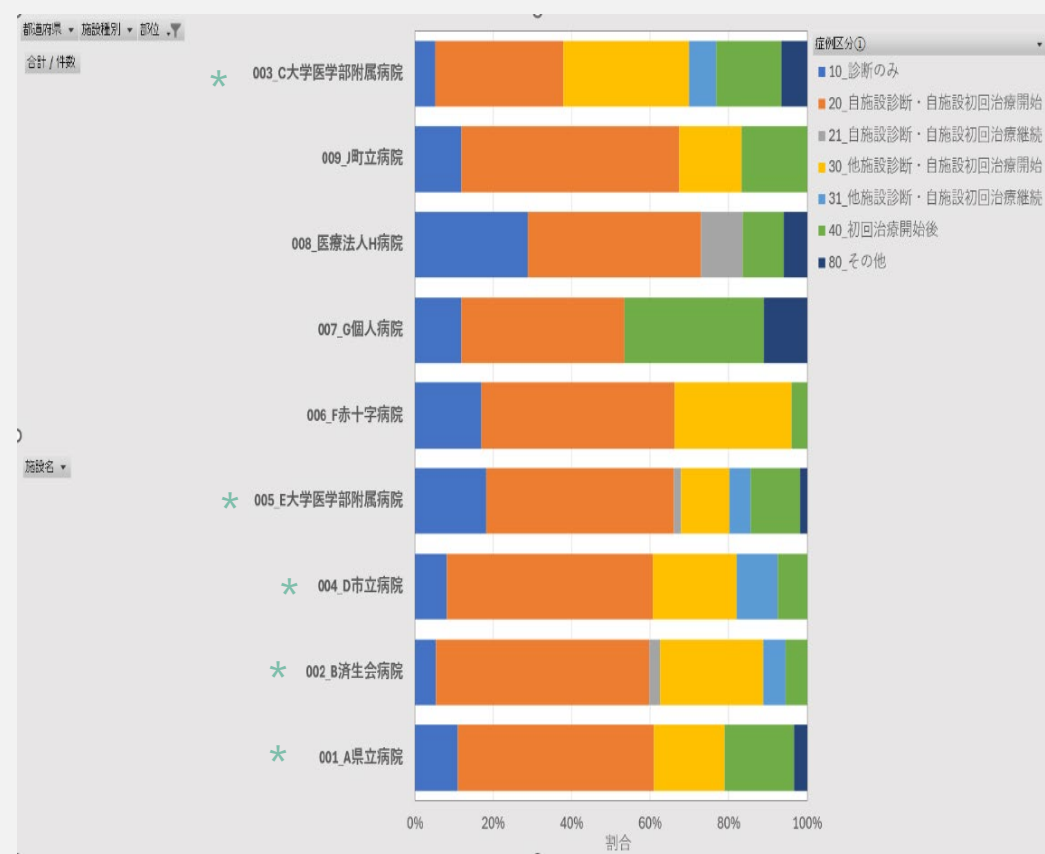
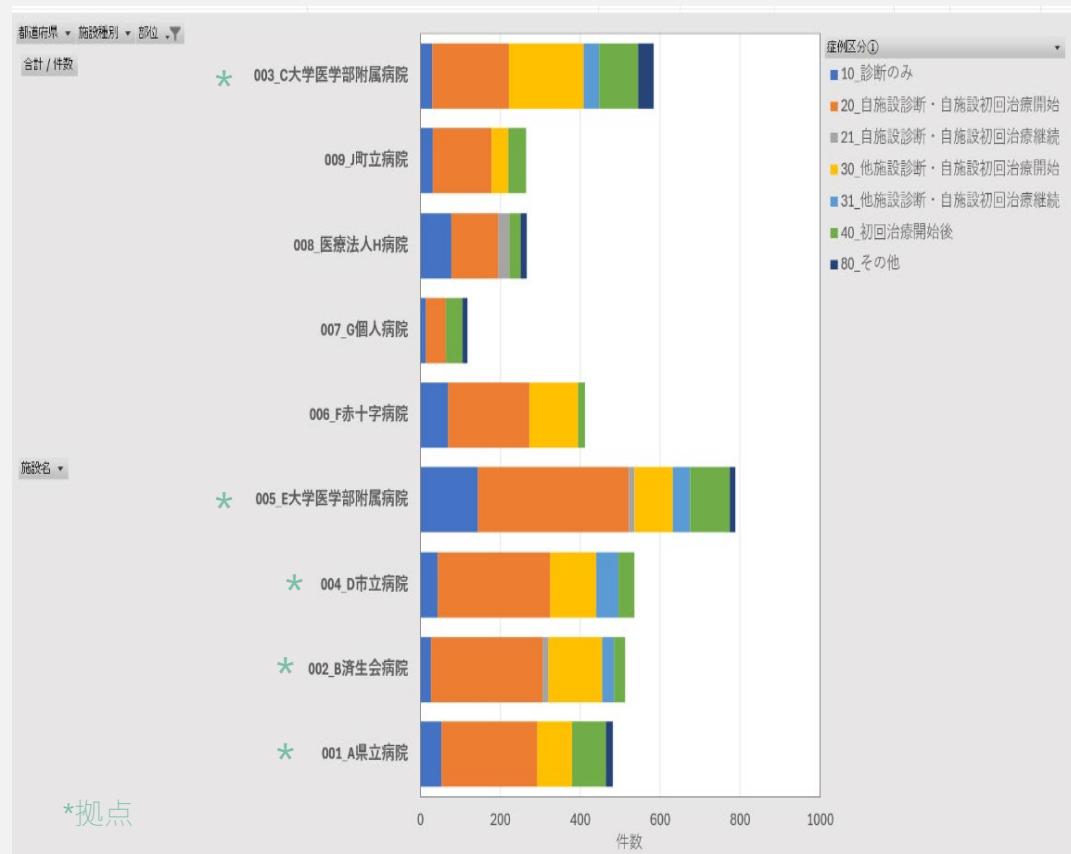
ピポットテーブルのフィールドで「フィルター」、「列」、「行」、「値」を変更すると、表も連動する。

[illegible]

値：合計/件数は固定

集計の一例 その1

③ 更新した表から、各施設の現状等を把握する。



- 自施設診断・自施設初回治療開始、他施設診断・自施設初回治療開始は、拠点・非拠点病院の合計で23,621例あった。
- 非拠点病院における、自施設診断・自施設初回治療開始、他施設診断・自施設初回治療開始は、3704例（15.7%）あった。
- 拠点病院における自施設診断・自施設初回治療開始、他施設診断・自施設初回治療開始は、14,566例（84.3%）で多くを占めた。

さらにデータセットを活用するために

- 拠点病院における自施設診断・自施設初回治療開始、他施設診断・自施設初回治療開始は、**14,566例（84.3%）**で多くを占めた。

同じ表を用いて、拠点病院ごとのがん種別に自施設診断・自施設初回治療継続をみる。

各施設では、どんながん種が他施設から紹介されて初回治療しているのか推察する。

データセットC・治療方法別の表を用いて、各施設の治療の傾向をみる。

分析の目的

自県の均てん化を検討するにあたって、

診断から**5**ヵ月以内の症例（症例区分①）において、各拠点病院の自施設診断症例の患者は、どの医療圏に居住していたのか把握する。

分析の手順

- ① 目的に適したデータが含まれる、データセット・表を、**A～D**から選択する。
- ② 目的に沿った表が閲覧できるように、データ項目を選択し表を更新する。
- ③ 更新した表から、各施設の現状等を把握する。

① 目的に適したデータセットを、**A～D**から選択する。

A	基本情報（性、年齢、症例区分別）別	初回配布・追加配布あり
B	UICC TNM分類の治療前ステージ、術後病理学的ステージ、総合ステージ別	
C	治療方法別	
D	患者住所二次医療圏別	初回配布・追加配布あり

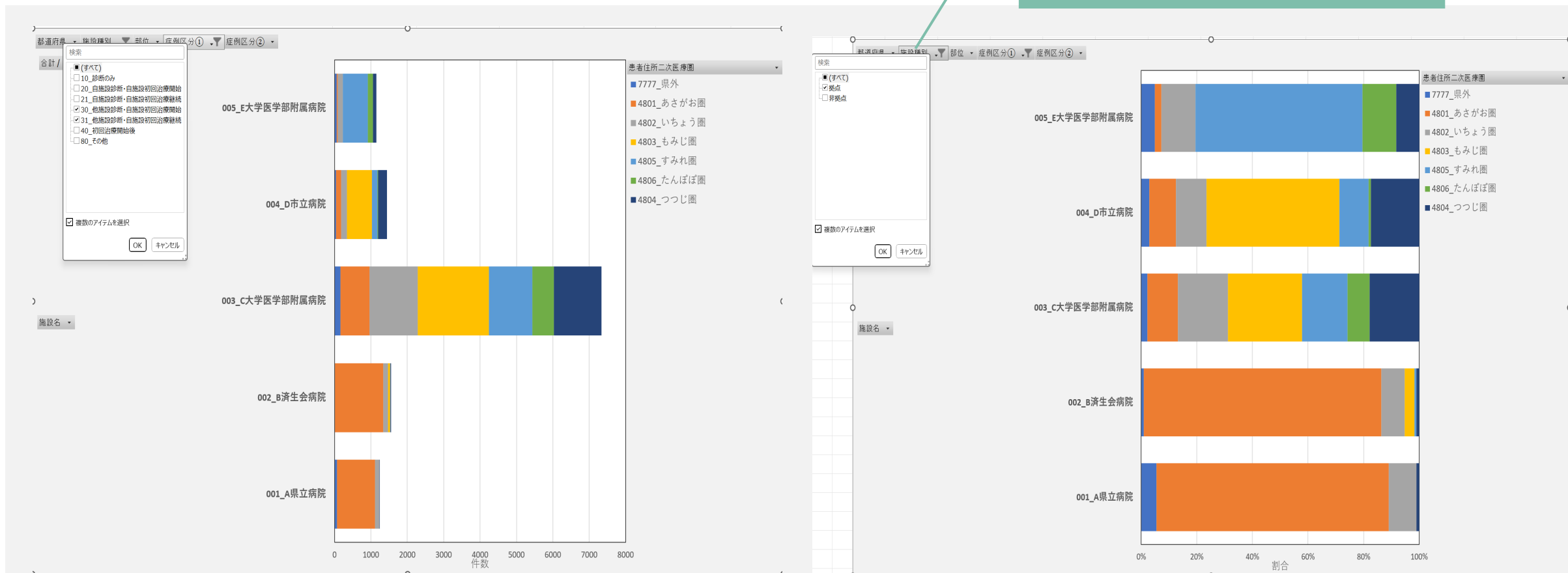
データセットD「施設別患者住所医療圏①」シート

都道府県	48_X県									
施設種別	拠点									
部位	(すべて)									
症例区分①	(複数のアイテム)									
症例区分②	(すべて)									
合計 / 件数		患者住所医療圏								
施設名		7777_県外	4801_あさがお園	4802_いちょう園	4803_もみじ園	4805_すみれ園	4806_たんぼぼ園	4804_つつじ園	総計	
001_A県立病院		68	1042	125					12	1247
002_B済生会病院		14	1326	130	54	12			15	1551
003_C大学医学部附属病院		166	800	1322	1957	1195	587		1307	7334
004_D市立病院		42	139	158	691	152	12		251	1445
005_E大学医学部附属病院		56	28	141		694	139		96	1154
総計		346	3335	1876	2702	2053	738		1681	12731

患者住所医療圏は、診断時に患者が居住していた住所から得た医療圏である。

③ 更新した表から、各施設の現状等を把握する。

表のフィルター、グラフで表示する項目を選択可能。



- A県立病院とB済生会病院の他施設診断・自施設治療開始/他施設診断・自施設治療開始は、あさがお圏に居住の患者が大半をしめる。
- C大学医学部附属病院は、様々な医療圏の患者がいるが、E大学医学部附属病院はすみれ圏、D市立病院はもみじ医療圏が多い。

さらにデータセットを活用するために

- 各施設に絞り、データセットD「患者住所医療圏②治療内容別」で、がん種、治療方法別にどの医療圏の患者が多いのか把握する。
- 自都道府県で、新たなピボットテーブルの作成して各施設の現状をより深める。

今後の展開

院内がん登録（施設別年次推移）のデータを、**2025年度末頃**にご提供させていただく予定で準備を進めております。

参考資料

「院内がん登録 2023年全国集計 令和7（2025）年2月」

https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/pdf/2023_report.pdf